

編集後記

木村三四吾教授は昭和六十一年、満七十七歳を迎えられ、三月末日を以て定年退職されました。誠にお名残惜しいことでございます。木村教授は昭和三十七年以来、本学において江戸文学を講じられ、昭和五十一年より教授としてご就任、教育のためご尽力になり、常に一同の敬愛の的であられました。この間、図書館長として、とりわけ新図書館の建設に力を尽され、また、図書館の整備、貴重な図書の購入等、ご功績は枚挙にいとまありません。教授の書物に関する御造詣の深さには、他の追隨を許さぬものがあり、文字どおり第一人者であります。ことに俳諧史、馬琴研究等の御研究は教授の独擅場と言ふべきであります。去る五月には名誉教授の称号を受けられ、本年度以降は非常勤講師としてご講義をいただいております。教授の学恩に報いるべく、微意ながら本誌二十四号を御退職記念号とさせていただきます。巻頭に玉稿を飾ることができましたことを深く感謝いたします。今後ますます御健勝にて御活躍のほどを切にお祈りいたす次第でございます。

(杉藤)

樟蔭国文学 第二十四号

昭和六十二年三月二十四日発行

編集者 大阪樟蔭女子大学
国語国文学会
(代表者 杉藤美代子)

印刷所 大阪市天王寺区上本町六、六六一
明新印刷(株) 大阪店
電話(〇六)七七一、四五〇一

発行所 東大阪市慶西四丁目二番一、一五号
大阪樟蔭女子大学国文学研究室内
大阪樟蔭女子大学
国語国文学会
電話(〇六)七三三、一八一